

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 25 日現在

機関番号：24302

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2011～2013

課題番号：23520312

研究課題名(和文) 初期近代イギリスのコスモロジーの変遷と死観の変容 - 科学と文学の接点から -

研究課題名(英文) Intellectual Historical Research of Science in Literature: The Change of Cosmology and the Idea of Death in Early Modern England

研究代表者

岡村 眞紀子 (OKAMURA, Makiko)

京都府立大学・文学部・研究員

研究者番号：80123488

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,900,000円、(間接経費) 1,170,000円

研究成果の概要(和文)：(1)古代ギリシアのプラトンから、中世を経て、初期近代のガリレオ、ケプラーまでの宇宙論の概観を掴み草稿を著した。

(2)16-17世紀イギリスのThomas Harriotの思想をマニユスクリプトを中心に解読・研究、併せて周辺の天文学者GilbertやDiggesからNewtonの著作を精査した。特に無限、原子論が研究の焦点である。

(3)Harriotも一員のHenry Percyのサークルの詩人George Chapmanの詩を精読し、そこからPercyサークルの「世界」についての思想の一端を読み解いた。彼らが依拠していたBrunoやFicinoも併せ研究し、口頭発表と論文として公表した。

研究成果の概要(英文)：(1) I surveyed and wrote a draft of the conspectus of cosmology from Plato to Galileo and Kepler.

(2) I read and examined closely the manuscripts by Thomas Harriot, who is called English Galileo, and also read the writings by Gilbert, Digges, and Newton, all of whom are contemporary astronomers of Harriot, in order to clear the cosmology in early modern England. The present research is focused on infinity and atomism.

(3) I read the poems by George Chapman, a member of Henry Percy Circle, to which Harriot belonged. In reading his poems, I found their idea of the creation of the world and their attitude to the created world. I deepened my research, reading the writings by Giordano Bruno and Marsilio Ficino as well, because Percy Circle members studied earnestly those philosophers. I published the result of my research as an article in a book Endings and Beginnings in Seventeenth-Century English Literature, after having read papers in two academic societies in Japan and in England.

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学・英米・英語圏文学

キーワード：コスモロジー インフィニティ アトミズム Thomas Harriot George Chapman Henry Percy Giordano Bruno Marsilio Ficino

1. 研究開始当初の背景

Intellectual history 研究は、日本では、まだほとんど進んでいない状況であったが、イギリスでは一つの流れをつくりつつあった。

それまで文学中心の研究を続けていた研究者は、『パラドックスの詩人 ジョン・ダン』としてひとつの成果を上げたのち、Intellectual History としての文学研究にとりかかった。文学と科学の接点という新しい切り口からの研究である。2009年の在外研究(Univ. of Oxford)で、天文学者・数学者・哲学者・航海術研究者の Thomas Harriot を中心に、初期近代イギリスにおけるコスモロジーの研究を始めた。

2. 研究の目的

科学に数学が導入され、自然哲学から自然科学へと科学が新たな転換を迎える中、大きな転換を展開することになる16、17世紀のコスモロジーを研究する。

コスモロジーの転換に伴って、当時の人々の世界(宇宙とこの世双方)観、さらにそれが人間の生と死に対する考え方にどのような影響を与えたか、その変容がどのように文学(特に詩)に表現されたか、その体系を明らかにするのが、本研究の目的である。

3. 研究の方法

(1)古代ギリシアの Platon、Aristoteles から16、17世紀の Copernicus、Brahe、Galileo、Kepler に至るコスモロジーを、文献の精査に基づいて、全体像をつかむ。

(2)16、17世紀のイギリスの天文学の文献、William Gilbert、Thomas Digges、Thomas Harriot、さらに Isaac Newton の著作を精読する。特に Thomas Harriot のマニユスクリプトを細かく読み解く。

(3)Harriot も一員であった Henry Percy のサークルに属していた詩人、文人たち、Matthew Roydon、George Chapman、Sir Walter Raleigh、Christopher Marlowe などの作品を読解し、そこに現われたコスモロジーを読み解く。

(4)本研究では、インフィニティ、アトミズムが焦点であるゆえ、Democritus から Epicurus、その思想を詩に著した Lucretius、さらに彼らの思想に共感し発展させた Giordano Bruno の著作をもとに、詳しく研究する。Bruno は(3)で挙げた Percy のサークルが興味深く研究し、彼らの思想の根幹とした思想家である。

(1)から(4)の研究をとおして、初期近代ヨーロッパのコスモロジーの変遷とその

次代精神への影響を体系化し、その英詩における文学表象を探る。

4. 研究成果

(1)古代ギリシアの Platon、Aristoteles から、その思想の受容と批判の中世を経て、初期近代の Copernicus、Brahe、Galileo、Kepler までのコスモロジーの概観を掴み、草稿を著した。彼らの文献を可能な限り原典に当たって精査した結果である。

(2)16-17世紀イギリスの Thomas Harriot について、周辺資料等を可能な限り広範に当たり、その生涯、思想、観測等を調査研究した。特に天文学、コスモロジーに関する著作は出版されていないので、特別に許可をもらってイギリス、ロンドンの British Library でマニユスクリプトを解読、精査した。併せて周辺の天文学者 William Gilbert、Thomas Digges から Isaac Newton の著作を読み解いた。特に無限、原子論についてが研究の焦点である。

(3)Harriot も一員の Henry Percy のサークルの詩人 George Chapman の詩を精読した。*Shadow of Night* および Homer の翻訳等に付されたソネットや献詩などの短詩である。それらの詩から、サークルの面々の思想 世界の創造(起源)や現世界に対する考え を読みとり、彼らが依拠していた Giordano Bruno や、Marsilio Ficino の著書も併せて研究した。

その結果は2度の口頭発表「The Shadow of Night に光を当てる - ジョージ・チャプマンの知 - 」(十七世紀英文学会関西支部、大阪 YMCA) と、The Shadow of Night Illuminated - Knowledge in *The Shadow of Night* by George Chapman, a contemporary of Thomas Harriot (Thomas Harriot Seminar, Durham University) と、論文「夜の暗黒」に「光」を当てる『夜の暗黒』におけるジョージ・チャプマンの知」(吉村伸夫編、『十七世紀英文学における終わりと始まり』、金星堂)として公表した。

(4)本研究の焦点であるインフィニティ、アトミズムの研究を深めるため、Lucretius と Giordano Bruno、二つの読書研究会を立ち上げ、前者は毎週、後者は毎月の研究会を持っている。前者では *De Rerum Natura* を輪読・議論を重ねているが、本書は、プリミティブな段階の Democritus のアトミズムを、体系として表現した最初の思想家 Epicurus の思想を後ラテン詩に著したものである。Epicurus の著作は残存せず、わずかに弟子の残した断片があるのみなので、本著

はアトミズムの端緒を知るためには貴重な資料である。また、後者の読書・研究会では、Bruno の *De gli eroici frori* を読み終えた。研究会での読書以外にもインフィニティやアトミズムに関わる彼の著作を読み進めてきている。Bruno は Harriot, Chapman 等が、強い関心を持って研究していた、世界の無限性や原子論的生成論を主張していた、当時としては未来に視点を据えた思想家であった。

(5)コスモロジーは、宇宙、この世(地球)にとどまらず、ミクロコスモスとしての人体の理解にも及ぶゆえ、医学からのアプローチも欠かせない。実際、すでに述べた天文学者 Gilbert も医者であった。その意味での重要書である大著 Robert Burton の *Anatomy of Melancholy* の翻訳も第1部のほぼ終わりまで進めた。

(6)さらにまた、コスモロジーは音楽や詩論とも深くかかわり、Chapman はギリシア古典 Homer の翻訳を手がけ、その際に韻律論を著している。本研究の中で取り上げてきた詩のなかでも、ところどころで詩論を展開している。現在出版準備中の『ソネット選集 ワイアットからハーバートまで』(『ソネット選集』シリーズの第3集)でも、Chapman の詩論をテーマとしたソネット連詩 'To his Mistress Philosophy' を取り上げた。彼の詩論については、近く論文に著す予定である。翻訳を続けている *Rhyme's Reason* はその研究の一環である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計9件)

岡村真紀子、武田雅子、(翻訳) John Hollander 著 *Rhyme's Reason* 翻訳〔5〕、大阪樟蔭女子大学樟蔭英語学会誌 英語と文化、査読無、第4号、2014、1-21

岡村真紀子、川島伸博、(翻訳) ロバート・バートン『憂鬱の解剖』第1部第2章第3節第15項、京都府立大学学術報告 人文、査読無、65号、2013、39-62

岡村真紀子、武田雅子、(翻訳) John Hollander 著 *Rhyme's Reason* 翻訳〔4〕、大阪樟蔭女子大学樟蔭英語学会誌 英語と文化、査読無、第3号、2013、17-28

岡村真紀子、武田雅子、(翻訳) John Hollander 著 *Rhyme's Reason* 翻訳〔3〕、大阪樟蔭女子大学研究紀要、査読無、第3巻、2013、119-125

岡村真紀子、川島伸博、(翻訳) ロバート・バートン『憂鬱の解剖』第1部第2章第3節第11-14項、京都府立大学学術報告 人文、査読無、64号、2012、77-95

岡村真紀子、武田雅子、(翻訳) John Hollander 著 *Rhyme's Reason* 翻訳〔2〕、大阪樟蔭女子大学樟蔭英語学会誌 英語と文化、査読無、第2号、2012、25-36

岡村真紀子、武田雅子、(翻訳) John Hollander 著 *Rhyme's Reason* 翻訳〔1〕、大阪樟蔭女子大学研究紀要、査読無、第2巻、2012、117-122

岡村真紀子、川島伸博、(翻訳) ロバート・バートン『憂鬱の解剖』第1部第2章第3節第1-10項、京都府立大学学術報告 人文、査読無、63号、2011、111-138

岡村真紀子 (書評) 上利政彦訳注『トテル詩選集 歌とソネット 1557』九州大学出版局 2010年 494pp、英文学研究、査読有、88巻、2011、117-122

[学会発表](計3件)

岡村真紀子、The Shadow of Night Illuminated - Knowledge in *The Shadow of Night* by George Chapman, a contemporary of Thomas Harriot, Thomas Harriot Seminar, 2012年12月15日、Duhram University

岡村真紀子、Translating John Donne's Biathanatos into Japanese, John Donne Society, 2012年6月26日、Leiden University

岡村真紀子、*The Shadow of Night* に光を当てる - ジョージ・チャプマンの知 -、十七世紀英文学会関西支部、2012年3月24日、大阪 YMCA

[図書](計1件)

吉村伸夫編、岡村真紀子、佐々木和貴、生田省悟他8名、金星堂、『十七世紀英文学における終わり始まり』、2013、238p.

[産業財産権]

出願状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等
なし

6. 研究組織

(1) 研究代表者

岡村 眞紀子 (OKAMURA, Makiko)
京都府立大学・文学部・研究員
研究者番号：80123488

(2) 研究分担者

なし
()

研究者番号：

(3) 連携研究者

なし
()

研究者番号：